

インド、3会合連続の利上げを実施 経済成長のためインフレ抑制を優先

インド準備銀行（中央銀行、RBI）は8月5日の金融政策決定会合において、政策金利を0.5%引き上げることを決定しました。5月以降で3会合連続の利上げとなります。RBIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

➤ 経済成長見通しを維持、インフレ抑制を優先

- RBIは8月3～5日の3日間にわたり定例の金融政策決定会合を開催し、政策金利であるレポ金利を0.50%引き上げて5.40%としました。今年に入って3会合連続の利上げとなりました。今回の利上げについては市場予想通りとなり、会合後に公表された声明文では、今回の決定は全会一致であったことが示されました。
- インド経済の先行きについては、地政学リスクによる物価への悪影響が懸念される一方、農業生産の拡大が期待される、とした上で、2022年度（2022年4月～2023年3月）の実質GDP（国内総生産）成長率見通しを前年度比+7.2%とし、前回の見通しを据え置きました。
- RBIは2022年度の消費者物価指数（CPI）上昇率（インフレ率、前年同月比）見通しを前回の6.7%のまま据え置きました。インドでは6月のCPI上昇率が7.01%となり、中央銀行が目標の上限とする6%を上回る状態が続いています。RBIは声明文の中で引き続き経済成長を支える一方でインフレ率がターゲットのレンジ内に収まるようインフレ抑制を優先するスタンスを明確にしています。

➤ 市場の反応と今後の見通し

- 今回の利上げは概ね市場予想の範囲内であり、5日の株式市場、債券市場ともに影響は限定的、小幅な動きとなりました。（SENSEX指数は前日比+0.2%、10年国債利回りは前日比+14bps（+0.14%））
- インフレ率は当面高い水準で推移すると見えています。RBIは引き続きインフレ抑制を優先し、今後も利上げを継続することを示唆しており、インフレ動向には注視が必要と考えています。（次回金融政策決定会合は9月に開催予定）

【政策金利*とインフレ率**の推移】

（2018年12月31日～2022年8月5日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。
新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年6月まで。

【SENSEX指数の推移】

（2018年12月31日～2022年8月5日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※配当無し（プライス）、インドルピーベース。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・フィナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞ ○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。